

どこまでも続く線路の脇で、並んで風に吹かれている桜。
マンションのベランダで、小さな植木鉢に精一杯咲く桜。

たくさんの子どもたちが通う学校の花壇で、咲き誇る桜。
なにもかもなくなったところで、力強く咲く桜。

春を迎えると、自然の中で都会の片隅で、たくさんの桜が咲き始めます。

桜は、古来より日本人にとって特別な花として好まれてきました。ぱつと咲いてさつと散るところから、その儚さや潔さを私たちの人生に重ねてみられることもあります。江戸時代においては、武士道の喩えとされたりもしました。

しかし、ぱつと咲く桜も、一瞬にして花が開いたように見えますが、今年咲いた花は、去年の夏にはすでに花芽ができていたのです。寒い冬の間、蕾のままじつと春を待っていたのです。

私たちの人生も、時にはただ耐え忍ぶほか、なすべがない時もあるでしょう。それでも、必ず春が来る、必ず花開く時を迎えると信じて精進努力に努めるのです。

宗祖日蓮大聖人は

法華経を信ずる人は冬のごとし、冬は必ず春となる。

いまだ昔より聞かず、見ず、冬の秋と還れる事を。『妙一尼御前御消息』
と、なにもものにも負けることのない信念と努力こそが、私たちが春へ、本当の幸せに導くことをお示しになられています。

桜が日本人に特に好まれるのは、見た目の美しき、そして儚さや潔さだけではなく、本当は、辛抱強く春を待ち続けるその姿が、私たちが未来を信じて努力し続ける姿に重なるからでしょう。

今日より明日、明日よりあさってと、未来へ向かって歩き続けよう。

